2017 年 7 月 5 日放送

子どもたちへの教育―「いのちの授業」を通じて

島田療育センターはちおうじ
所長　小沢　浩

今日は、私が取り組んでいる「いのちの授業」を紹介したいと思います。

自殺やいじめの記事が、いつも新聞を賑わしています。　自殺やいじめをなくすにはどうしたらいいのだろうか。そんなことを考えていた時に、私の母校、伊豆市天城中学校から「いのちの授業」をさせていただく機会をいただきました。

「いのちの授業」の方法を次のようにしました。

1) 自分が生まれたときのことを家族一名からインタビューする。
2) インタビューの内容を作文にまとめる。
3) 「いのちの授業」で作文を紹介する。
4) 障がい児の紹介および体験をして障がいについて考える。
5) 授業終了後自宅で作文を家族の前で読んで返す。
6) 授業の感想を書く。

では、作文を紹介しましょう。

「私が生まれてすぐ、父はへその緒を切る時に「これ切ったら痛くない？大丈夫？」ととても心配しながら切ったそうです。わたしが顔を真っ赤にして産まれてきた時も、父は「なんで赤いの？大丈夫？これって血なの？タオルもってこようか？」と大丈夫と言っているのにずっとオドオドしてたみたいです。とてもういういしいなあと思いました。」

「生まれてきた時は泣かなかったらしい。へソの緒が首にまきついて泣けなかったのだ。病院の人が私のおしりをバシバシたたいて無理矢理泣かしてくれたらしい。だがせめてパシパシがよかった。」

「お母さんに話を聞いていた時に涙をうかべていたのを見て、とてもぼくを大切にしてくれたんだなと思いました。お母さんはよく怒るから苦手なんだけど、そんなお母さんが大好きです。」

「わたしが生まれたのは朝だったそうです。病室から見た空が茜色になっていて、太陽のようにあたたかい人になってもらいたいと思って名前をつけてくれたそうです。」

「二人目の赤ちゃんを望んでいたお母さんは病気でお医者さんに無理だと言われていました。東京の病院に通いやっと授かった赤ちゃんが紗矢香です。出産までもトラブルの連続でした。妊娠十ヶ月の時に腎炎になり、高熱で入院、お腹の子は大丈夫か不安で、どうかお腹の子は助けて下さいと祈り続けました。いろいろな事を乗り越えての出産だったので、本当に無事に生まれてくれてありがとうと心の底から感謝しました。産婦人科の先生が、妊娠して無事出産するのがあたり前のように思われがちだが、無事に生まれてくると言うのは、それは奇跡なんだと話してくださいました。だから、あなた達が生きていると言う事は、たくさんの奇跡が与えてくれたかけがえのない宝物なのです。その尊い命を大切にして下さい。」

私が生まれてすぐ、父はへその緒を切る時に「これ切ったら痛くない？大丈夫？」ととても心配しながら切ったそうです。わたしが顔を真っ赤にして産まれてきた時も、父は「なんで赤いの？大丈夫？これって血なの？タオルもってこようか？」と大丈夫と言っているのにずっとオドオドしてたみたいです。
とてもういういしいなあと思いました。

生まれてきた時は泣かなかったらしい。へソの緒が首にまきついて泣けなかったのだ。病院の人が私のおしりをバシバシたたいて無理矢理泣かしてくれたらしい。
だがせめてパシパシがよかった。

お母さんにその話を聞いていた時に涙をうかべていたのを見て、とてもぼくを大切にしてくれたんだなと思いました。
お母さんはよく怒るから苦手なんだけど、そんなお母さんが大好きです。

わたしが生まれたのは朝だったそうです。病室から見た空が茜色になっていて、太陽のようにあたたかい人になってもらいたいと思って名前をつけてくれたそうです。
（あかね）

生徒の作文には、健康でよかった。五体満足でよかったなど、生まれたときの喜び、安心感が書かれていました。

では、「障害」とは、何でしょうか。一つ話を紹介します。

二人目の赤ちゃんを望んでいたお母さんは病気でお医者さんに無理だと言われていました。東京の病院に通いやっと授かった赤ちゃんが紗矢香です。出産までもトラブルの連続でした。妊娠十ヶ月の時に腎炎になり、高熱で入院、お腹の子は大丈夫か不安で、どうかお腹の子は助けて下さいと祈り続けました。いろいろな事を乗り越えての出産だったので、本当に無事に生まれてくれてありがとうと心の底から感謝しました。

産婦人科の先生が、妊娠して無事出産するのがあたり前のように思われがちだが、無事に生まれてくると言うのは、それは奇跡なんだと話してくださいました。だから、あなた達が生きていると言う事は、たくさんの奇跡が与えてくれたかけがえのない宝物なのです。その尊い命を大切にして下さい。

【六本のろうそく】

ヤマト君は、脳性麻痺の男の子。生まれたときに、新生児仮死で脳に酸素が十分送られなかったことによって寝たきりの状態になりました。でも、よくまわりのことをわかっていて絵本が好きで物語や人の笑い声でよく笑ってくれます。

ヤマト君のお父さんは救急隊員でした。私が小児病院で当直をしていたときに、よく救急車で子どもたちを連れてきてくれました。救急隊として仕事で来たときは、いつも「先生、夜中まで大変だね！」「そっちこそ、ご苦労さま。」などとよく話していた、子どもたちを守るいわば仲間のような存在でした。

ある日のこと、「なんか、俺、やる気が出ない、変なんだ！！」とお父さんが言い出しました。心配なのでお母さんは病院に連れて行きました。

そこで診察した医者は、「うつ病ですね。」と一言。 納得いかないまま、自宅に帰りました。

しかし、その日の夜、お父さんは痙攣発作を起こし、救急車で集中治療室に運ばれました。そして、人工呼吸器管理になりました。診断はウイルス感染による急性脳症でした。ヤマト君の友人のママたちがお父さんの状態を教えてくれました。

しばらくしてヤマト君のお母さんが「先生、話があるの。」と私のところにやってきました。お母さんは、うつむいて疲れはてていました。私は一番奥の診察室にお母さんとヤマト君を連れて行きました。バタンとドアが閉まったときでした。

「なんで私ばっかりこんな不幸な目に合わなきゃなんないのよ！」お母さんは泣き崩れました。泣き声だけが部屋に響き、私にはかけてあげる言葉が私には何も浮かばない。時間だけが過ぎていきました。

でも、そのときです。ふとみるとヤマト君が笑っていました。「ヤマト君が笑っているね」その一言だけ私は言いました。「そうね、ヤマトが笑っている。ヤマトに笑われている。私が頑張らなきゃ。」そう言ってお母さんは涙をふきました。その出来事があってから、お母さんは泣きませんでした。涙をみせませんでした。ヤマト君の笑顔に、私も、お母さんも救われました。しばらくしてお父さんは天国に旅立ちました。

私がヤマト君の話を伝えたいとお願いしたときに、その時だけお母さんは泣きました。「何言ってるのよ、先生」って。それから教えてくれました。「実は私、ヤマトが生まれた時、一緒に死のうと思ったの。そしたらお父さんが、『俺がお前たちを幸せにする。一生守ってやるから、絶対に

おまえたちを死なせない』って言ってくれたの。だから生きていこうと思った。お父さんは死んじゃったけど、まさかヤマトに助けられるとは思わなかった。ヤマトは一家の大黒柱よ。」

子どもたちには力があります。
癒やしてくれる力があります。
包み込んでくれる力があります。
素晴らしい力があります。

その力をどう伝えたらいいのか。私はいつも考えています。

「生まれてくれてありがとう」お母さんが、お父さんが、おばあちゃんが、おじいちゃんが、お姉ちゃんが、お兄ちゃんが、おばちゃんが、おじちゃんが、みんな思ってくれている。そんな家族と一緒に歩んでいくのが私たちの仕事なのだと思います。

しばらくして、お母さんは写真を送ってきてくれました。六歳の誕生日のものでした。ケーキの上の六本のろうそく。その一本一本が人生を物語っていました。その人生すべてを包みこむようにヤマト君は笑っていました。

奇跡がくれた宝物ーいのちの授業ー

この子は私である
あの子も私である

島田療育園初代園長小林提樹の言葉です。障害といわれている人たちと私たちと何が違うのでしょうか。何も違わない。分け隔てているのは、私たち自身なんだと思います。

「幸せ」とは何でしょうか。勉強ができて、いい大学入って、いい会社に入れば「幸せ」なんでしょうか。そんなことはありません。仕事につまずいて引きこもってしまったり、自ら大切ないのちを絶ってしまったりする人もいます。

では、お金持ちが「幸せ」でしょうか。そんなことはありません。生活に必要なお金はないと困ってしまいますが、世間の人たちがうらやむほどのお金を持ち、そのお金で不幸になる人もいっぱいます。お金が人生の目的になってはいけません。お金は何か目的を果たすための手段として必要なのだと思います。

私の外来には「障害」といわれる個性をもった子どもたちとその家族が多くやってきます。子どもを中心として本当にうらやましいと思う、ほのぼのとした家族がいっぱい訪れてくれます。

「人はみな平等。」みんなそう言います。でも、私はそう思いません。かけっこが遅い人はどんなに頑張ってもかけっこが一番になることはできない。私がかけっこでオリンピック選手になる

ことはできないでしょう。才能は平等ではありません。環境は平等ではありません。

でも人はみんな「幸せ」をつかむことはできます。自分のおかれた環境の中で、人と比べることなく、感謝の気持ちを持ち、「ありがとう」を伝え、みんなで「幸せのかたち」を創っていくことはできる。だから「人はみな平等」なんだと思います。

私たちは「幸せの形」を作っていくお手伝いをさせていただき、そこから私たちも幸せをもらっているのだと思います。

「いのち」ってどこにある？
すべてにある。
ぼくにも、わたしにも、とりにも、
むしにも、はなにも……

「いのち」ってだれのもの？
みんなのもの。
おかあさん、おとうさん、おじいちゃん、
おばあちゃん、ともだち、せんせい、
ぼくをそだててくれたみんなのもの

福島相馬のたんぽぽ

「いのち」ってどこにある？

すべてにある。ぼくにも、わたしにも、とりにも、むしにも、はなにも……。

「いのち」ってだれのもの？

みんなのもの。

おかあさん、おとうさん、おじいちゃん、おばあちゃん、ともだち、せんせい、

ぼくをそだててくれたみんなのもの。

命を大切にしましょう。

「小児科診療 UP-to-DATE」

http://medical.radionikkei.jp/uptodate/